

県内9か所の農業改良普及センターからの現地情報をお届けいたします。

みやぎの

7月号

農業普及現場



普及活動標語

思いを形に、あなたのチャレンジを支えます。
応援します。農業普及

NEWS LETTER No.233 2026.7

紹介内容 (6/1～6/30)

1. みやぎの農業を担う次代の人材育成と革新技術の活用等による生産基盤の強化

① 先進的経営体等の育成及び経営安定化・高度化支援・・・・・・・・・・・・・・ 1

- 美 里農改：美里地域乾田直播現地検討会を開催！地域一体となって乾田直播の技術向上を目指します！
- 石 巻農改：令和8年度東松島市農業法人等連絡協議会が開催されました
- 大 崎農改：農事組合法人やくらい土産センターさんちゃん会第24回通常総会が開催されました

② 新たな担い手の確保・育成・・・・・・・・・・・・・・ 2

- 石 巻農改：みやぎ農業未来塾（在学者コース）を開催しました。
- 亘 理農改：農業大学校1年生が亘理農業改良普及センターを訪問しました
- 亘 理農改：下余田Ⅱ期地区担い手部会総会が開催されました
- 仙 台農改：みやぎ農業未来塾 就農準備塾を開催しました！
- 美 里農改：美里地区みやぎ農業未来塾「農大先進農業体験学習に係る普及センター訪問」を開催しました
- 登 米農改：東和町内ノ目地区で加工用トマトの定植が行われました
- 大 崎農改：農大生が普及センターを訪問
- 石 巻農改：令和8年度石巻農業士会通常総会及び歓送迎会が開催されました
- 石 巻農改：農地整備事業地区の高収益作物としてさつまいもの定植が行われました
- 登 米農改：登米市4HCが県庁販売会「ほっとな登米をお届けします」に参加しました

③ 先端技術等の推進・普及による園芸産地の育成・強化・・・・・・・・・・・・・・ 5

- 亘 理農改：名取市内でディスク式高速一工程播種機実演会が開催されました

④ 環境に配慮した持続可能な農業生産・・・・・・・・・・・・・・ 5

- 気仙沼農改：令和8年度南三陸ぶどう栽培研修会を開催しました
- 気仙沼農改：海洋プラスチック問題に配慮したペースト肥料の田植え実演会が開催されました
- 大河原農改：環境に配慮した稲作体系の構築に向けた生育調査を実施しました

⑤ 園芸産地の育成・強化支援・・・・・・・・・・・・・・ 6

- 登 米農改：加工用ばれいしょ萌芽しました！
- 仙 台農改：ぶどうの房づくり技術の向上のために
～ＪＡ新みやぎあさひなぶどう部会無種子化講習会～
- 亘 理農改：ＪＡ仙台いちご部会「いちご育苗講習会」が開催されました
- 美 里農改：果樹カメムシ類の適期防除へ 北浦梨部会でフェロモントラップ調査を開始

このニュースレターは、ホームページ(カラー版)でご覧になれます。<https://www.pref.miyagi.jp/soshiki/nosin/gennba1.html>
このニュースレターに掲載している情報を一足早く紹介するブログもあります。<https://ameblo.jp/miyagifukyu/entrylist.html>

- 栗 原農改：ズッキーニの現地検討会を開催しました！
 - 亘 理農改：りんご摘果講習会が開催されました
 - 亘 理農改：高館地区加工用たまねぎほ場巡回が実施されました
 - 大河原農改：野菜栽培講習会が開催されました！
 - 亘 理農改：ＪＡ仙台亘理花卉部会土壌管理講習会が開催されました
 - 栗 原農改：県庁ロビー販売会で栗っこズッキーニを販売しました！
 - 仙 台農改：適期管理作業による高品質なりんご生産に向けて
～ＪＡ新みやぎあさひなりんご部会現地検討会～
 - 大河原農改：道の駅かくた野菜栽培講習会が開催されました！
 - 登 米農改：ＪＡみやぎ登米花卉部会菊専門部で出荷査定会、現地検討会が開催されました
 - 大 崎農改：令和８年産ピーマン現地検討会が開催されました
 - 亘 理農改：名取岩沼地域で抑制胡瓜講習会が開催されました
 - 大 崎農改：令和８年度ハウスなす現地検討会が開催されました
 - 石 巻農改：目指せ高収量！加工用ばれいしょの現地検討会を開催しました
 - 登 米農改：ＪＡみやぎ登米花卉部会で花木現地検討会が開催！
 - 大河原農改：ブロッコリーの栽培講習会が開催されました！
 - 大河原農改：仙南地域園芸特産振興担当者会議が開催されました
 - 大 崎農改：白菜栽培講習会が開催されました
 - 美 里農改：ブロッコリー・そらまめ合同現地検討会が開催されました
 - 大河原農改：白石地区で果樹部会の現地検討会が開催されました
- ⑥ 収益性の高い水田農業・畜産経営の展開支援・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 13
- 石 巻農改：乾田直播現地検討会の開催
 - 石 巻農改：収穫前の麦類現地検討会が開催されました
 - 登 米農改：おいしいお米の生産を目指して、つや姫栽培講習会が開催されました！
 - 石 巻農改：大豆栽培講習会が開催されました
 - 大河原農改：大麦種子の収穫作業が始まりました
 - 大河原農改：牛舎屋根にドローンを利用した遮熱塗料の塗布が行われました
- ⑦ 地域資源の活用等による地域農業の維持・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 14
- 亘 理農改：みやぎ食材伝道士認定事業の農作業体験が実施されました
 - 気仙沼農改：酒米サポーターズクラブの田植え体験会が開催されました

1. 人材育成・生産基盤の強化

①先進的経営体等の育成及び経営安定化・高度化支援

- 美里地域乾田直播現地検討会を開催！地域一体となって乾田直播の技術向上を目指します！
令和8年6月2日
美里農業改良普及センター



美里地域では近年急速に水稻乾田直播の面積が拡大しています。もともと麦類の播種技術を活用して乾田直播を実践する生産者がいましたが、ここ数年は経営規模拡大における省力化技術として新規に取り組む生産者が増えています。面積が拡大する一方で、播種後から入水前までの管理について課題を抱えている生産者が多いことから、乾田直播の技術の向上や生産者同士で情報交換する機会を設けるため、JA新みやぎみどりの統括営農センターと美里農業改良普及センターで「第1回美里地域乾田直播現地検討会」を開催しました。

現地検討会では3か所のほ場を巡回し、イネの出芽や雑草の発生状況を確認するとともに、講師の古川農業試験場作物栽培部水稻チーム員が「入水前後の管理について」の講義を行いました。当日は美里地域全域から生産者やJA職員等約50名が参加し、乾田直播への高い関心が示されました。講義後は「砕土が荒かったためか出芽が悪いがどうしたらよいか」「除草剤の散布と入水のタイミングについて詳しく教えてほしい」など生産者同士での活発な意見交換が行われました。

普及センターでは、夏頃に2回目の現地検討会を予定しています。地域全体で乾田直播の技術向上を図るため、引き続きJAと連携して生産者の支援をしてまいります。

- 令和8年度東松島市農業法人等連絡協議会が開催されました
令和8年6月19日
石巻農業改良普及センター



令和8年5月25日に東松島市農業法人等連絡協議会通常総会が開催されました。

東松島市農業法人等連絡協議会は、東松島市の農業発展と持続的な農業経営体の育成を目的に、令和3年3月に設立し5年目を迎え、現在の会員数は26法人となっています。

総会では、令和7年度の事業報告、令和8年度の事業計画等の議案が審議され、原案のとおり可決、成立しました。今年度の事業計画では、資質向上を図る研修会の開催のほか、東松島市産業祭への出展や地元高校への新米の贈呈など、東松島市の農業の魅力を発信していく活動を展開していく予定です。研修会終了後、普及センターから「みどりの食料システム戦略とみどり認定」について、東松島市ふるさと納税推進室から「東松島市ふるさと納税の状況について」を情報提供しました。

引き続き、会員の農業法人の経営発展と地域農業への貢献が期待されます。

- 農事組合法人やくらい土産センターさんちゃん会第24回通常総会が開催されました
令和8年6月30日
大崎農業改良普及センター



加美町の薬菜山にある「やくらい土産センター・山の幸センター」は農事組合法人やくらい土産センターさんちゃん会が運営する農産物直売所で、平成6年のスタート以来、中山間地である当地域の活性化に寄与してきました。しかし、ここ数年、経営上の課題が顕在化してきていることから、普及センターと加美町ではその改善に向けた様々な支援を行っています。

去る令和8年6月23日には24回目となる通常総会が開催され、令和9年度から現在の農事組合法人

から株式会社へ法人形態の変更を行うことやより魅力ある直売所とするため、消費者ニーズの把握と品揃え対策の実践等、6つの重点実施事項を推進していくことなど提出された4つの議案がすべて承認されました。

総会終了後には、来賓として出席されていた加美町の石山町長から、台湾との交流事業についてのお話がありました。加美町は今年3月に台湾の嘉義県嘉義市と友好都市提携協定を結んでいます。

普及センターでは今後もさんちゃん会の発展に向けた支援を行っていきます。

②新たな担い手の確保・育成

○みやぎ農業未来塾(在学者コース)を開催しました

令和8年6月4日

石巻農業改良普及センター



令和8年5月29日に、今年の秋に管内の農業法人で研修予定の農業大学校生による普及センター訪問に合わせて、「みやぎ農業未来塾(在学者コース～石巻地域の農業理解講座①)」を開催しました。

はじめに、座学により、協同農業普及事業の概要や石巻農業改良普及センターの活動内容、石巻地域の農業の特色について講義を行いました。その後(株)アグリ・パレットに移動し、いちご、トマト生産施設を見学しました。

代表取締役の石川様から、会社概要と、いちごとトマトの先進的な園芸施設について、丁寧に説明いただきました。

学生は、農業や経営者としての心構えなど、短い時間で多くのことを学んだ様子で、たいへん有意義な講座となりました。

○農業大学校1年生が亘理農業改良普及センターを訪問しました

令和8年6月5日

亘理農業改良普及センター



令和8年5月29日、亘理農業改良普及センターにおいて、宮城県農業大学校1年生12名を対象に、みやぎ農業未来塾「地域農業紹介講座」を開催しました。

この講座は、農業大学校1年生に対し、地域農業への理解を深める目的で実施しました。当日は、管内の農業の概要や、普及センターの役割、就農支援についての情報提供を行いました。

その後の質疑応答では、「地域の農業法人はどのような品目が多いか」、「人気の農産加工品は何か」、「地域農業の課題は何か」などの質問が相次ぎ、学生たちが真剣に学ぶ姿が見られました。

今後、学生たちは9月から約1か月間、先進的な農業を実践する農業者の元で「先進農業体験学習」に臨みます。普及センターは、これらの研修を通じ、地域農業の未来を担う次世代への農業学習を支援してまいります。

○下余田Ⅱ期地区担い手部会総会が開催されました

令和8年6月5日

亘理農業改良普及センター



令和8年5月29日(金)、名取市役所を会場に令和8年度下余田Ⅱ期地区担い手部会総会が開催されました。当日は、部会員12人が参加し、令和7年度事業、収支決算の報告や令和8年度事業計画(案)、収支予算(案)が審議され、原案のとおり可決されました。

担い手部会は、令和6年8月に設立され、下余田Ⅱ期地区ほ場整備事業の円滑な推進のため、土地利用調整活動、高収益作物の生産性向上に関する活動や農地所有適格法人等の持続的な経営の発展に関する活動等を実施しています。

令和8年度に面工事が始まることから勉強会の開催や実証ほの設置、先進地視察研修など、自主的な活動を展開できるように、普及センターでは、関係機関

と連携しながら、積極的に支援してまいります。

○みやぎ農業未来塾 就農準備塾を開催しました！

令和8年6月10日

仙台農業改良普及センター



令和8年5月29日（金）に、宮城県農業大学校新入生の普及センター訪問に合わせ、例年開催している「みやぎ農業未来塾 就農準備塾」を実施しました。

今年は県内外出身の学生総勢13名が来所しました。自己紹介の際はやや緊張した面持ちでしたが、普及センターの職員から、普及指導員の仕事や仙台地域の農業の概要、新規就農者向けの支援制度についての講義を行った際は、真剣に聴講していました。

質疑応答の際には、「農業の担い手不足を解消するにはどうしたらよいか」や、「実家の農業を継承するが、いまから準備しておくことはあるか」など自身の将来を見据えた質問が挙がり、積極的に学ぼうとする姿勢が窺えました。

新入生の皆さんは、秋に先進農業体験学習が控えています。仙台農業改良普及センターでは、今後も、将来の担い手となりうる皆さんの学びを支援してまいります！

○美里地区みやぎ農業未来塾「農大先進農業体験学習に係る普及センター訪問」を開催しました

令和8年6月10日

美里農業改良普及センター



宮城県農業大学校の「先進農業体験学習」の実施に当たり、学生が出身地域の農業の概要等について事前学習を行うため、令和8年5月29日（金）に、美里地区みやぎ農業未来塾「農大先進農業体験学習に係る普及センター訪問」を開催しました。

当日は管内出身の学生4名が参加し、普及センター職員より管内の農業の現状や普及センターの役割

や取り組み内容等について説明し、質疑応答や意見交換を行いました。

参加した学生からは、「農業機械の実践的な操作技術やスマート農業の取組について詳しく話を聞きたい」「将来は親の農業を継ぎたいので、具体的な経営のノウハウや利益を生み出すための工夫について学びたい」といった意気込みが聞かれ、体験学習への意欲が高まったようでした。

今後も普及センターでは、将来の担い手確保に向け、農業大学校と連携して学生の就農意欲向上を図っていきます。

○東和町内ノ目地区で加工用トマトの定植が行われました

令和8年6月12日

登米農業改良普及センター



登米市東和町の内ノ目地区では、令和8年度の農地整備事業採択に向けた取り組みが進められています。当普及センターでは今年度より、同地区の担い手育成支援をプロジェクト課題として位置づけ、その一環として高収益作物（加工用トマト）の栽培技術習得に向けた支援に取り組んでいます。

令和8年6月4日、5日に加工用トマトの定植作業が実施され、移植機の操作方法、移植機への苗投入方法、苗定植後の病害虫管理方法について支援を行いました。

ほ場の土壌水分が高い状況でしたが、作業員を含め担い手4名で協力しながら2日間で70aの定植を無事に完了することができました。

今後も当センターでは、関係機関と一丸となって、内ノ目地区の地域営農構想の実現に向けた支援を進めていきます。

○農大生が普及センターを訪問

令和8年6月16日

大崎農業改良普及センター



この春、宮城県農業大学校に入学したばかりの1年生7名が、大崎管内の農業の現状や普及センターの業務について学習するため、令和8年5月29日に当普及センターを訪問しました。

どの学生も熱心にメモを取りながら職員の話聞き、最後には、就農に向けた疑問点等について質疑応答を行いました。卒業後の就農に意欲的な学生も複数いたことから、普及センターでは、農業大学校と連携しながら就農まで継続的に支援するとともに、新規就農者を含めた地域の担い手の確保・育成に努めていきます。

○令和8年度石巻農業士会通常総会及び歓送迎会が開催されました
令和8年6月19日
石巻農業改良普及センター



令和8年6月10日、石巻農業士会の令和8年度通常総会が開催されました。

会員15名のほか、来賓として石巻農業改良普及センター所長が出席しました。

会費の増額、役員選任条件の簡素化、農業士会の口座管理体制の強化といった、すべての議案が全会一致で承認されました。さらに、昨年度から始まった宮城県漁業士会中部支部との共催イベントについても、継続することが決定されました。

続く歓送迎会では、普及センター職員も交えて和やかに相互交流が行われ、退任される佐藤順彦氏及び新任の阿部聡氏からそれぞれ温かいご挨拶をいただきました。

当普及センターとしても、新たな体制となった石巻農業士会と連携し、地域農業の担い手の確保・育成に向けて積極的に取り組んでまいります。

○農地整備事業地区の高収益作物としてさつまいもの定植が行われました

令和8年6月23日
石巻農業改良普及センター



令和8年6月12日、石巻市の農地整備事業「深谷東地区」のほ場で、深谷東営農組合がさつまいもの苗を植え付けました。

本組合では、農地整備地区内で将来取り組む高収益作物としてさつまいもを選定し、今年は40aで試作を行います。当日は、組合員10名ほどが機械移植と手植えの二手に分かれ、機械メーカーや近隣の先進農家から指導を受けながら植え付けを行いました。

普及センターでは、今後の生育状況や作業時間、収量等を調査しながら、高収益作物への取組を支援していきます。

○登米市4HCが県庁販売会「ほっとな登米をお届けします」に参加しました

令和8年6月24日
登米農業改良普及センター



令和8年6月15日、県庁ロビーにて販売会「ほつとな登米をお届けします」が開催され、登米市4Hクラブが参加しました。

当日は、クラブ員が育てた玉ねぎやにんにくのほか、JAみやぎ登米きゅうり部会の新鮮なきゅうりを販売しました。また、会場では登米市の木工品も並び、多くの来場者でにぎわいました。

その結果、4Hクラブの出品物はすべて完売。来場者の中には、登米市4Hクラブの活動に興味を持ってくださる方もおり、会話を通じてクラブの魅力を伝える良い機会となりました。

参加したクラブ員からは、「自分たちの活動に自信が持てた」「次の販売会にもぜひ参加したい」といった前向きな声が聞かれ、今後の活動への意欲も高まった様子でした。

普及センターでは今後も登米市4Hクラブの活動を支援していきます。

③先端技術等の推進・普及による経営効率

○名取市内でディスク式高速一工程播種機実演会が開催されました
令和8年6月18日
亘理農業改良普及センター



令和8年6月15日、名取市内で、農研機構（注）主催のディスク式高速一工程播種機実演会が開催されました。

この播種機は、農研機構九州沖縄農業研究センターが開発したもので、担当者からは、「アップカッターにオプションで溝付けディスクを取り付けることにより、高速で一工程の播種ができ、湿害対策や残渣のすき込みが可能になり、梅雨に麦後大豆播種が短期間で可能となる技術である」と説明がありました。

名取市の生産者は、麦の収穫後、短期間での大豆播

種が可能になる技術と併せて、排水溝ができることによる湿害対策に大いに期待を寄せていました。

実演会には、他県からの参加もあり、参加した生産者からは、「会社のアップカッターにも付けられる可能性があり面白い」等の感想が聞かれました。

普及センターでは、先端技術等を活用しながら、大豆の安定生産に向けた支援を行ってまいります。

（注）農研機構：国立研究開発法人 農業・食品産業技術総合研究機構の略

④環境に配慮した持続可能な農業生産

○令和8年度南三陸ぶどう栽培研修会を開催しました
令和8年6月9日
気仙沼農業改良普及センター



令和5年11月に南三陸町のぶどう生産者で設立された「南三陸大粒ぶどう協議会」では、会員が生産したシャインマスカットなどの大粒種ぶどうを「しおかぜ葡萄」としてブランド化し販売を行っています。

「しおかぜ葡萄」の高品質・安定生産に向け、令和8年5月26日に南三陸大粒ぶどう協議会を対象に栽培技術研修会を開催し、生産者16名が参加しました。

研修会では、普及指導員が講師となり、花穂整形等の栽培管理を実演するとともに病虫害防除等の栽培管理について説明を行いました。また、省力化技術の紹介として、アシストスーツの実演を行いました。参加者同士で「先端が変形している場合の花穂整形はどうすべきか」等、活発な意見交換を行っている様子も見られた有意義な研修会となりました。アシストスーツについては、摘粒等の時間を要する作業に軽労化が期待できそうだと感想が聞かれました。

普及センターでは今後も「しおかぜ葡萄」の高品質・安定生産に向け支援を続けてまいります。

○海洋プラスチック問題に配慮したペースト肥料の田植え実演会が開催されました
令和8年6月12日
気仙沼農業改良普及センター



令和8年5月25日に、気仙沼市の水田においてペー
スト肥料を使った田植えが行われました。

水稻栽培では施肥の労働力軽減等のため、プラス
チックでコーティングされた肥料が使われています
が、分解されなかったプラスチックが河川に流れ、環
境への影響が懸念されています。今回使用したペー
スト2段施肥田植機は、施肥深度を上段と下段にす
ることで肥効の発現時期を調節できるほか、施肥、箱
処理剤散布の全てを1度の田植えで行うことができ
るため、省力化にも繋がります。

実証ほの設置は、J Aと肥料メーカーが実施主体
ですが、県も関係者と連携して当該技術の取組を支
援していきます。

○環境に配慮した稲作体系の構築に向けた生育 調査を実施しました

令和8年6月24日

大河原農業改良普及センター



グリーン米研究会（構成員：面川農場株式会社、有
限会社花園種苗、大河原農業改良普及センター）では
「グリーンな栽培体系加速化事業」を活用し、家畜堆
肥を使うことで通常の栽培よりも化成肥料を減らし、
環境への負荷を低減した米づくりの実証に取り組ん

でいます。

昨年12月に豚ふん堆肥を散布し化学肥料を減らし
た水田と、通常の肥料を投入した水田で稲の生育を
比較するために生育調査を行いました。

生育調査は、構成員である面川農場が、普及センタ
ー職員と共に草丈や茎数などを調査しました。今後
は、定期的に調査を行いながら、衛星画像を活用した
センシング技術も組み合わせて稲の生育状況を観察
し、環境に配慮した栽培方法を検討していく予定で
す。

普及センターでは、今後も農業者と連携し、これら
の技術を組み合わせたグリーンな栽培体系の普及拡大
を支援していきます

⑤園芸産地の育成・強化支援

○加工用ばれいしょ萌芽しました！

令和8年6月1日

登米農業改良普及センター



登米地域では、今年も、ポテトチップスの原材料と
なる加工用ばれいしょの栽培が始まりました。普及
センターでは、3月から4月にかけて植え付けられ
たばれいしょの萌芽状況※を確認するため圃場の巡
回を行いました。

植え付け時期により萌芽時期が違うものの令和8
年5月14日の巡回において、全ての圃場で萌芽が確
認されました。

今後、普及センターでは、安定生産につながるよう
栽培管理に関して支援をおこなってまいります。

※萌芽：ばれいしょの芽が地上に出ること

○ぶどうの房づくり技術の向上のために ～J A新 みやぎあさひなぶどう部会無種子化講習会～

令和8年6月2日

仙台農業改良普及センター

令和8年5月26日(火)、J A新みやぎあさひなぶ
どう部会員を対象に、栽培講習会が開催されました。

部会では育苗ハウス等を活用したぶどう栽培に取り
組んでおり、生産されたぶどうは地元直売施設、庭
先販売及び贈答用販売が行われています。

講習会当日は、部会員16人、J A担当職員が出席
し、ぶどうの房づくり技術を中心に、現地ほ場で摘
房・整房、ジベレリン処理等、実技を交えながら講習
を行いました。

摘房・整房等の管理は、ぶどう栽培にとって重要な

管理作業で、作業のタイミングや良否は果実の商品性を左右します。それらの点についてポイントを置いて説明を行いました。

参加者からは、摘心や副梢の処理方法等について積極的に質問が出されるなど、栽培技術向上の意欲が伺えました。

普及センターでは、ぶどう栽培技術向上に向けた取り組みを継続的に支援しています。

○JA仙台いちご部会「いちご育苗講習会」が開催されました 令和 8 年6月 2 日 亘理農業改良普及センター

令和 8 年 5 月 26 日、J A 仙台主催によるいちご育苗研修会が亘理町の「亘理山元いちご選果場」で開催されました。

研修会には、いちご部会生産者 22 人の他、J A 営農センター関係者等が参加しました。

亘理農業改良普及センター職員が講師となり、今年の育苗作業について、育苗初期、中期、後期に分けて育苗の栽培管理の要点を説明しました。最後に、温暖化に伴い発生状況が変化している病害虫の防除について、防除例とともに説明しました。

令和 5 年以降、夏の高温が顕著になり、花芽分化が遅れ、育苗期間が長くなりつつあります。研修会では、親株の追肥と、育苗期前半の施肥を勧め、健全な苗の育成に努めることを提案しました。

普及センターでは、いちごの栽培と安定生産に向け、引き続き支援を行っていきます。

○果樹カメムシ類の適期防除へ 北浦梨部会でフェロモントラップ調査を開始 令和 8 年6月3日 美里農業改良普及センター



美里町は県内有数の日本なし産地で、「北浦梨」は大正時代から続く地域の特産品です。

そのような産地でも、近年の気候変動に伴う病害虫による影響が懸念されており、中でも果樹カメムシ類による果実への被害が課題となっています。そこで、「J A 新みやぎ北浦梨部会」では今年産より、果樹カメムシ類の発生状況を把握するための「フェロモントラップ調査」を開始しました。生産者と普及センターが連携し、定期的な調査によって地域ごとの発生傾向が見える化・共有することで、適期防除の実施につなげる計画です。

果樹カメムシ類は園地ごとに飛来するタイミングや量が異なるため、最終的な防除はこれまで通り園

地の見回りによる個別の判断が必要となります。日々のこまめな園地の見回りと、見える化したデータの活用を組み合わせることで、今年の秋も美味しい「北浦梨」を収穫するための取組が続いています。

○ズッキーニの現地検討会を開催しました！ 令和 8 年6月5日 栗原農業改良普及センター



令和 8 年 5 月 26 日、栗原市若柳地区において、J A 新みやぎ栗っこズッキーニ部会の現地検討会が開催されました。

J A 新みやぎ栗っこズッキーニ部会員、市場関係者、種苗メーカー等 22 人が参加し、収穫期を迎えたズッキーニの出荷規格や、今後の栽培のポイントについて確認を行いました。

普及センターからは、今後気を付ける病害虫について説明を行いました。

また、参加者同士では生育状況の確認や、意見交換が行われ、部会として高品質なズッキーニを生産していくことを確認しました。

順調に生育が進んでおり、県内のスーパーや栗原市内の直売所に栗原産ズッキーニが並ぶ予定です。見かけた際はぜひお買い求めください。

普及センターでは、引き続き高品質なズッキーニ生産の支援に取り組んでまいります。

○りんご摘果講習会が開催されました 令和 8 年6月8日 亘理農業改良普及センター



5 月 22 日、26 日、29 日に亘理町（逢隈、吉田）と岩沼市（長岡）の 3 か所でりんご摘果講習会が開催され、地域のりんご生産者やそのパート従業員など、延べ約 40 人が参加しました。

普及センター職員が講師として、摘果の作業手順について実演を交えながら説明しました。

りんごの摘果は、1年間の中で最も時間のかかる作業です。まず、前年伸びた枝についた果実はすべて取り除きます。次に1つの芽に5～6果成る果実を1果にします。さらに、4芽に1果の割合で仕上げます。良い果実を選ぶことで、品質の高いりんごが生産できます。

参加者から「どの果実を残せばいいか」という質問があり、大きくて軸が長い果実を残すように助言しました。

普及センターでは、今後も高品質な果実生産に向けた支援を行っていきます。

○高館地区加工用たまねぎほ場巡回が実施されました

令和8年6月10日

亘理農業改良普及センター



令和8年6月2日、高館畑作物振興協議会による加工用たまねぎのほ場巡回が実施され、部会役員9名のほか、J A 仙台及び普及センター職員が参加しました。

当日は部会員26名のほ場を巡回し、生育状況や品質を確認しました。冬期から春先にかけての乾燥の影響による生育のばらつきや小玉傾向など、ほ場や管理による差は多少見られるものの、生育状況は概ね良好で、順調に推移しています。

巡回では、ほ場ごとの違いを踏まえた今後の水分管理の徹底、べと病の適期防除、施肥管理について検討が行われました。また、今年は収穫が平年よりやや早まる見込みであることが示され、生育状況に応じた適切な管理の重要性について、活発な意見交換が行われました。

普及センターでは、今後も関係機関と連携し、加工用たまねぎの安定生産に向けた支援を行ってまいります。

○野菜栽培講習会が開催されました！

令和8年6月12日

大河原農業改良普及センター



令和8年6月5日、丸森町で「めぐみ野野菜栽培講習会」が開催されました。当日は、丸森地区産直部会およびブロッコリー部会の会員ら約15名が参加し、講師として普及センターの職員が出席しました。

講習会では、近年続いている「猛暑」による影響と技術対策、これからの時期に重要となる「秋ブロッコリーの栽培方法」について、普及センターから講演や情報提供を行いました。

今年も厳しい暑さが予想されていることもあり、参加者の皆さんは熱心に耳を傾けられました。

普及センターでは、今後も継続して栽培技術の指導を行ってまいります。

○J A 仙台亘理花卉部会土壤管理講習会が開催されました

令和8年6月12日

亘理農業改良普及センター



令和8年6月10日にJ A 仙台逢隈支店会議室でJ A 仙台亘理花卉部会土壤管理講習会が開催されました。

普及センターから土壌分析結果を基に、次作の施肥管理について説明し意見交換しました。

意見交換の中で、出席者からは、気候が温暖化する中での分析結果の活用の仕方や、資材高騰の中で堆肥を活用することの重要性などの意見が聞かれました。

普及センターでは、関係機関と連携を図りながら園芸産地を支援していきます。

○県庁ロビー販売会で栗っこズッキーニを販売しました！

令和8年6月15日

栗原農業改良普及センター





令和8年6月4日、宮城県庁1階ロビーにて、「くりはらマルシェ」が開催されました。

今年もJA新みやぎズッキーニ部会員が栗っこズッキーニを販売し、生産者ならではのレシピや、栗っこズッキーニのおすすめポイントをお客様にお伝えしながら産地PRを行っていました。

お客様の中には、5、6本まとめ買いする方や「毎年楽しみにしている」とお話される方もおり、ズッキーニの知名度が上がっていることを感じられました。

好評につき、300本準備した栗っこズッキーニは完売となりました。

普及センターでは、引き続き高品質なズッキーニ生産と産地PRの支援に取り組んでまいります。

○適期管理作業による高品質なりんご生産に向けて～JA新みやぎあさひなりんご部会現地検討会～

令和8年6月16日

仙台農業改良普及センター



令和8年6月11日(木)、JA新みやぎあさひなりんご部会の現地検討会が開催されました。

当日は参加者の園地を巡回しながら、りんごの生育や栽培管理及び病害虫の発生状況等の確認を行いました。

普及センターからはこれまでの天気の推移や今後の栽培管理の留意点、病害虫防除のポイント等の説明を行いました。

参加者からは、ハダニ類の防除や樹勢の管理に関すること等の質問や意見交換が行われ、今後の栽培管理に役立つ検討会となりました。

普及センターでは、りんご栽培技術向上への取り組みを継続的に支援しています。

○道の駅かくだ野菜栽培講習会が開催されました！

令和8年6月17日

大河原農業改良普及センター



令和8年6月10日、角田市民センターを会場に、道の駅かくだ出荷者協議会が主催する野菜栽培講習会が開催されました。当日は生産者約30名が参加し、普及センターの職員が講師を務めました。

講習会では、「病害虫防除の基礎と考え方」と題し、総合防除(I・P・M)の必要性と基本的な考え方、最新の防除技術など情報提供を行いました。

参加者からは、ドローン防除やたまねぎ栽培に関する質問が寄せられ、今後の栽培への意欲がうかがえる講習会となりました。

普及センターでは、農産物直売所等の活性化が図られるよう、今後も栽培技術の指導を行ってまいります。

○JAみやぎ登米花卉部会菊専門部で出荷査定会、現地検討会が開催されました

令和8年6月18日

登米農業改良普及センター



令和8年6月11日に、JAみやぎ登米花卉部会菊専門部で出荷査定会と現地検討会が行われました。

現在出荷中のスプレーギクについては、切り前、花首の長さ等に問題はないこと、盆出荷用については栽培管理を徹底してほしいと、卸売市場の担当者から話がありました。

引き続き行われた現地検討会では、2人の生産者のほ場を巡回しました。普及センターからは、昨年発生が多かったアザミウマ対策や高温対策について説明し、定期的な防除の必要性を呼びかけました。

生産者においては、品種による生育の特徴や苗代の高騰、高温への対策などの生産上の課題に対し、活発に情報交換を行っていました。

普及センターでは、今後も、高品質なスプレーギクを安定的に出荷できるよう、栽培技術指導を中心に

支援していきます。

○令和8年産ピーマン現地検討会が開催されました

令和8年6月 18日

大崎農業改良普及センター



令和8年6月11日(木)、J A古川による令和8年産ピーマン現地検討会が開催され、生産者11名が参加し、生産者のほ場2か所を巡回しました。

タキイ種苗株式会社から、例年発生が懸念されている尻腐れ果対策など、今後の栽培管理に関する説明がありました。また、普及センターからは、これから注意が必要な病害虫防除について説明を行いました。ピーマンに病害虫の発生は見られませんでした。が、ほ場周辺の雑草に発生が確認されたことから、初期防除を呼びかけました。

どちらのほ場も定植から約1か月が経過しており、今後の収穫期に備えた株づくりが順調に進んでおりました。生産者同士で活発に情報交換を行いながら、さらなる栽培技術の向上に向けて熱心に取り組む姿勢が感じられました。普及センターでは、引き続き大崎地域におけるピーマン生産の技術的支援を行っていきます。

○名取岩沼地域で抑制胡瓜講習会が開催されました

令和8年6月 18日

亘理農業改良普及センター



名取・岩沼地域では、7月以降に抑制きゅうりが作付けされることからJ A仙台名取岩沼地区ハウス胡瓜部会の主催で「抑制胡瓜栽培講習会」が開催され、生産者やJ A仙台の営農指導員、資材メーカーなど約20名の参加がありました。

講習会では、種苗メーカーから「抑制栽培の栽培方法」について、奨励品種や成りこみに合わせた灌水と

追肥、高温期の適切な定植時期などの説明がありました。当所からは「温暖化時代の防除対策について」タバココナジラミやハダニ類などの微小害虫の生態、天敵利用による防除などを紹介しました。

生産者からは、品種選びに関する質問や「害虫の発生期間の長期化で天敵を有効に使用したいと思っている」などの感想が聞かれました。

普及センターでは、今後も関係機関と連携し、きゅうりの安定生産を支援していきます。

○令和8年度ハウスなす現地検討会が開催されました

令和8年6月 22日

大崎農業改良普及センター



令和8年6月2日(火)、J A古川なす部会の「令和8年度ハウスなす現地検討会」が開催されました。

現地検討会には部会員15名、関係機関9名が参加し、古川地区のハウスなすほ場において、現在の生育状況を確認し、今後の栽培管理について検討を行いました。

J A古川なす部会の渡邊アドバイザーからは、今後の栽培管理のポイントとして、急激な気温上昇による日焼け果を防ぐための通路かん水の励行や、樹勢に応じた複花管理、追肥方法などについての説明がありました。また、普及センターからは、最近の病害虫の発生状況や、防除の留意点について情報提供を行いました。

大崎普及センターでは、令和8年度プロジェクト課題として、J A古川なす部会を対象に「古川なす」の安定生産やブランド化に向けた支援を行っています。このたび、部会の取組として、大崎市内の飲食店「とことん亭」で古川なすのメニュー化が決定しました。また、セブンイレブンでは今年も期間限定で、古川なすを使ったパスタやカップデリなどが販売されます。この機会にぜひご賞味ください！

○目指せ高収量！加工用ばれいしょの現地検討会を開催しました
 令和8年6月 23 日
 石巻農業改良普及センター



令和8年6月16日（火）に普及センター主催による令和8年度石巻地域ばれいしょ現地検討会を開催しました。石巻管内では東松島地域と石巻市桃生地域の4つの農業法人が中心となり、約40ha（実面積）の作付けを行っています。今年度は、春先の降雨により植え付けが遅れ気味となりましたが、現在、生育も旺盛で多くのほ場で開花最盛期を迎えています。

当日は、生産者、JAいしのまき、カルビーポテト株式会社など、約25人の参加があり、試し掘りを行いながら、現在の塊茎などの状況把握を行うとともに、収穫までの栽培管理の留意点などについて、参加者一同で再確認を行いました。

○JAみやぎ登米花卉部会で花木現地検討会が開催！
 令和8年6月 24 日
 登米農業改良普及センター



令和8年6月19日に、JAみやぎ登米花卉部会で花木類（スモークツリー、紅花、ススキなど）の出荷に

向けて、花木の現地検討会が開催されました。

現地検討会では、収穫予定のほ場を巡回し、今年の生育状況やほ場の管理について情報交換を行いました。その後、出荷場へ移動し、市場の動向や出荷のポイントについて意見交換が行われました。

普及センターからは今後の病虫害対策や農薬の適正使用、熱中症防止の呼びかけを行いました。

○ブロッコリーの栽培講習会が開催されました！
 令和8年6月 26 日
 大河原農業改良普及センター



仙南地域は、県内最大のブロッコリーの産地であり、春どりと秋冬どりの2つの作型に取り組んでいます。

秋冬どりの作型が始まる7月を前に、丸森町と川崎町にてJAみやぎ仙南主催の秋冬どりブロッコリーの栽培講習会が開催されました。

講習会では、普及センターが講師となり、基本的な栽培管理や近年問題となっている高温及び黒すす病への対策について説明しました。参加者からは、黒すす病の防除方法や育苗中の遮光等について質問や意見が出され、活発な情報交換が行われました。また、川崎町の部会では、近年の高温や黒すす病に対する耐性品種の作付けを検討しており、種苗会社からそれら耐性品種の特性について説明がありました。

普及センターでは、今後も継続して栽培技術の指導を行ってまいります。

○仙南地域園芸特産振興担当者会議が開催されました
 令和8年6月 26 日
 大河原農業改良普及センター



令和8年6月17日に仙南地域園芸特産振興担当者会議が開催され、普及センターは事例紹介や現地視察対応を行いました。

会議は2部構成で、前半は会議室で県の園芸振興方針や補助事業の説明などを行いました。出席者からは、独自の支援制度や、地域の園芸に関する新たな取組などの情報が提供されました。

後半は、高収益作物として加工用トマトに取り組む柴田町の農事組合法人葉坂希望の郷のほ場へ移動し、現地視察を行いました。法人の理事からは、栽培のポイントや収益性などについて説明があり、出席者が熱心に質問する姿が見られました。

仙南地域では、農地整備が盛んに行われており、高収益作物の選定に関心が高まっています。今回の担当者会議を契機に、市町職員間の連携が深まり、今後の園芸振興につながることが期待されます。

○白菜栽培講習会が開催されました

令和8年6月29日

大崎農業改良普及センター



令和8年6月22日(火)、J A加美よつば加工野菜生産部会の「白菜栽培講習会」が開催され、生産者11名が参加しました。

株式会社トーホクからは、白菜の品種特性や今後の栽培管理のポイントとして定植前後における栽培管理の注意点について、兵藤種苗からは、白菜栽培にお勧めの液肥等資材について説明がありました。

普及センターからは、近年の夏季における降雨量や暑熱対策、根こぶ病の特徴と防除について説明しました。また、これから暑い時期の栽培管理となるため、作業中の熱中症対策についても呼びかけました。

○ブロッコリー・そらまめ合同現地検討会が開催されました

令和8年6月29日

美里農業改良普及センター



大崎市田尻地域において、ブロッコリーとそらまめを栽培している生産者に向けて、令和8年5月27日にJ A新みやぎ田尻営農センターが、「ブロッコリー・そらまめ合同現地検討会」を開催しました。

美里農業改良普及センターは講師として地域内3か所のほ場を巡回し、ブロッコリーとそらまめの生育の様子や病害虫の発生状況の確認を行いました。

ブロッコリーでは他の野菜を作付けする畝をすることで病害の拡大を防ぐ工夫(コンパニオンプランツ)が取られていました。また、そらまめのほ場では病害虫管理が適正に行われており、もうすぐ収穫を迎える莢の様子を確認しました。中には4粒入りの丸々とした莢も見られました!

普及センターからは今後の防除のポイントについて説明するとともに次作の健全な土づくりに向け、定期的な土壌診断の呼びかけをしました。

今後も普及センターは安定した野菜の生産を支援してまいります。

○白石地区で果樹部会の現地検討会が開催されました

令和8年6月29日

大河原農業改良普及センター



令和8年6月19日、「JAみやぎ仙南白石地区果樹部会 現地検討会」が開催され、部会員10人が参加しました。

当日は、部会員の4園地を巡回して生育状況や病害虫発生状況を確認しました。普及センターからは、今後の栽培管理における留意点や病害虫防除のポイントについて説明を行いました。

参加者の間では、栽培品種や生育状況に関する活発な情報交換が行われ、今後の栽培管理に役立つ有意義な検討会となりました。

普及センターでは、今後もりんご栽培技術の支援を行っていきます。

⑥収益性の高い水田農業・畜産経営の展開支援

○乾田直播現地検討会の開催

令和8年6月11日

石巻農業改良普及センター



令和8年5月13日(水)、5月22日(金)にJAいしのまき主催の水稲乾田直播現地検討会が開催されました。

管内の乾田直播栽培のほ場を巡回し、出芽や雑草の発生状況の確認を行いました。今年は播種時期の降雨により、播種期間が長くなったことや、播種後の少雨で乾燥したほ場も多かったことから、出芽時期がばらついた傾向でした。

生産者からは入水前の除草剤のタイミングや入水の時期について質問があり、稲やヒエの葉齢や苗立ち本数を確認しながら、防除のタイミングを検討しました。農研機構の講師からはノビエ葉齢予測アプリの紹介がされ、生産者は活用し意欲的な様子でした。

乾田直播栽培は県内で普及が進んでおり、石巻地域では令和7年で約1,500ヘクタールの栽培面積となっています。今後も拡大が見込まれますので、安定した収量・品質を確保した稲作を推進するため、地域一丸となって取り組んでいきます。

○収穫前の麦類現地検討会が開催されました

令和8年6月12日

石巻農業改良普及センター



JAいしのまき主催による麦類現地検討会が、令和8年5月25日(東松島地区、石巻地区)および6月2、3、4日(河南地区、桃生地区、河北地区)に開催されました。各地区で出穂期からの日数、茎葉、穂首、子実の色、子実の硬さなどにより成熟期の目安を判断し、成熟期近くまで到達しているほ場では、実際に子実水分を測定し、収穫適期(子実水分30%以下)の確認を行いました。

成熟期を判断する目安は、茎葉、穂首が黄色く、子実は大麦が黄白色、小麦が褐色となり、子実は指で押さえて乳汁がでないロウ状の硬さになった時期で、そのおよそ3日後が収穫適期とされていますが、天候により前後することがあるため、成熟期が近づいたらこまめにほ場を観察して適期刈り取りに努めるよう呼びかけました。

管内の麦類の収穫は平年並みの6月上旬頃から本格的に始まる見込みで、適期収穫と適正な乾燥調整により、高品質な麦の出荷を目指します。

○おいしいお米の生産を目指して、つや姫栽培講習会が開催されました！

令和8年6月16日

登米農業改良普及センター



6月9日、JAみやぎ登米西部営農経済センター主催のつや姫栽培講習会が開催され、栽培者及び関係機関から約40名が出席しました。

普及センターからは、3つの項目について説明いたしました。1点目は、特別栽培米に準じた栽培を行うこと、復元田での栽培は行わないこと等の作付け方針について。2点目に、品種特性と栽培のポイントについて。3点目に、気を付けるべき病害虫の対策について。また、つや姫は茶米が発生しやすくなるため、刈取適期の考え方についても説明を行いました。参加者からは、基肥やカメムシ防除についての質問もあり、つや姫栽培に対する意欲が感じられました。

この他、J A全農みやぎからは、現在の米穀情勢について説明があり、需要に応じた生産が呼びかけられました。また、メーカー11社からは農業資材の説明などがあり、充実した研修会となりました。

普及センターでは、今後も登米市内の水稻生産について支援を行ってまいります。

○大豆栽培講習会が開催されました

令和8年6月19日

石巻農業改良普及センター



令和8年5月26日に、管内の生産者やJ Aの営農指導員ら関係者約50人が参加し、J Aいしのまき主催の大豆栽培講習会が開催されました。当普及センターから「令和7年産大豆の総括及び令和8年産大豆栽培管理のポイントについて」の講義を行いました。令和7年産の作柄については、干ばつや高温傾向により、落花、落莢、小粒化などが起こり、収量や上位等級比率が平年を下回るなどの影響が出ました。令和8年産の栽培管理については、適切な土づくりや、培土や灌水等の高温・乾燥対策及び、適期に除草剤を散布する雑草対策がポイントであることを確認しました。

○大麦種子の収穫作業が始まりました

令和8年6月19日

大河原農業改良普及センター



6月10日から、大麦種子の収穫作業が始まりました。

当管内では、大河原町で4.8haの大麦（ホワイトファイバー）の種子が生産されています。

今年の大麦種子は、冬の間の生育が遅れ気味だったものの、3月・4月の好天により生育が回復し、平年並みの4月下旬に出穂しました。出穂後も良質な種子を生産するための生産者の努力により、防除作業などが徹底して行われ、無事に収穫を迎えました。

生産者のお話では、穀粒水分から見ても良いタイミングで収穫作業を行うことができ、収量も高かったとのことでした。

普及センターからは、生育状況をもとに防除適期をお知らせしたほか、収穫後の乾燥・調整のポイントについて助言を行いました。今後も、優良な種子の確保に向けて、生産者への支援を継続してまいります。

○牛舎屋根にドローンを利用した遮熱塗料の塗布が行われました

令和8年6月25日

大河原農業改良普及センター



6月18日、丸森町で、牛舎の屋根にドローンを利用した遮熱塗料の塗布が行われました。

牛舎の暑熱対策の1つとして、屋根に石灰を塗布する方法が知られていますが、高所での作業となることから危険を伴うこと、雨や雪で塗布した石灰が流れてしまうため毎年塗り替えが必要であるなど、なかなか実施できずにいる酪農家が多い状況です。

そのような中、近年、ドローンを利用した遮熱塗料の塗布が行われています。

塗料を塗る前に、ドローンにより屋根を洗浄し、遮熱塗料がしっかり定着するためのコーティング剤を塗布することで、遮熱塗料の効果を長期間保たせます。

この取り組みを支援するため、県では独自の事業により補助しており、令和7年度から県内各地で行われています。

今後も、普及センターでは畜産経営における暑熱対策支援に取り組んでまいります。

⑦地域資源の活用等による地域農業の維持

○みやぎ食材伝道士認定事業の農作業体験が実施されました

令和8年6月5日 亘理農業改良普及センター

令和8年5月25日(月)、亘理町の遠藤果樹園において、ホテル等の料理人3人が参加し、みやぎ食材伝道士認定に向けた「りんご摘果作業実習」が行われました。

本事業は、平成19年度から仙台地方振興事務所が主催し、農作業実習等を通して生産者と料理人の交流を深め、料理人の方々に仙台地域の食材への関心を深めるとともに愛着を持っていただくことで、地域食材の利用拡大を推進することを目的に実施しているものです。一定の現地農作業実習を実施した料理人を「みやぎ食材伝道士」に認定し、料理の提供を通じて生産者の想いを消費者に伝え、消費者の地産地消に対する意識向上に寄与することを目指しています。

実習では、園主から摘果方法の説明を受けた後、品種「ジョナゴールド」の樹に移動し、4～5個のりんごが着いている果そうに摘果ハサミを入れ、1個の実だけを残す「摘果作業」を行いました。上を見上げながらの作業は大変でしたが、ひとつずつ丁寧に作業をしていました。

参加者は、りんご栽培について理解を深め、次回予定されている葉かき作業実習にも意欲的でした。

普及センターでは、今後とも当地域の農産物の活用拡大に向けた取組を支援していきます。

〇酒米サポーターズクラブの田植え体験会が開催されました

令和8年6月12日
気仙沼農業改良普及センター



令和8年5月23日に、気仙沼市の廿一（にじゅういち）地区で、生産者、地元酒蔵、酒販売店等で構成された酒米サポーターズクラブによる酒米「蔵の華」の田植え体験会が開催されました。廿一地区は中山間地域に棚田が大きく広がり、沢ではわさび、秋には栗がとれる自然豊かな地域です。

この取り組みは歴史が深く、今年で25年目を迎えました。今年は参加者が多く、気仙沼市内の蔵元2社（株式会社男山本店、株式会社角星）や地域住民を含む50人以上が参加し、にぎやかな体験イベントとなりました。

秋には収穫イベントも予定されていますので、稲の成長を願い今回の作業は予定通り終了しました。

普及センターでは高品質な酒米の安定生産に向け、現地での栽培指導など、引き続き支援を行っていきます。

普及指導員が県内9か所の普及センターで、農業者を支援しています。

<大河原>

〒989-1243
大河原町字南 129-1
TEL:0224-53-3519

<亘理>

〒989-2301
亘理町逢隈中泉字本木9
TEL:0223-34-1141

<仙台>

〒981-0914
仙台市青葉区堤通雨宮町4-17
TEL:022-275-8320

<大崎>

〒989-6117
大崎市古川旭四丁目1-1
TEL:0229-91-0727

<美里>

〒987-0005
美里町北浦字笹館5
TEL:0229-32-3115

<栗原>

〒987-2251
栗原市築館藤木5-1
TEL:0228-22-9404

<登米>

〒987-0511
登米市迫町佐沼字西佐沼 150-5
TEL:0220-22-8603

<石巻>

〒986-0850
石巻市あゆみ野5-7
TEL:0225-95-7612

<気仙沼>

〒988-0181
気仙沼市赤岩杉ノ沢 47-6
TEL:0226-25-8068



* 各農業改良普及センターには、「地域の食と農の相談窓口」を設置しております。食や農に関して知りたいことがありましたら、上記連絡先にお問い合わせください。

みやぎの農業普及現場 NEWS LETTER No.233

発行日:2026 年8月3日

発行:宮城県農政部農業振興課

編集:宮城県農政部農業振興課普及支援班

TEL:022-211-2837 FAX:022-211-2839

E-mail : gbfs@pref.miyagi.lg.jp